

MONTHLY TEST

社会 4 12月号



受験番号と氏名を解答用紙に正しく書きなさい。答えは解答用紙に書きなさい。

1 次の各文を読んで、あとの問いに答えなさい。

a この作物は、外国産のオレンジときびしい競争にさらされ、への転作をする農家も多くあります。

b この作物は、^{きよほう}巨峰・デラウェア・マスカットなどの多くの種類があり、特にで多く生産されています。

この作物は、鹿児島県や茨城県などでさかんに生産され、^{あま}甘みがあることからとよばれています。

この作物は、日本人の食生活に^か欠かせない、^{なっとう}納豆やなどの原料に利用されています。

c この作物は、^{かちく}家畜のえさの中心になっています。そのほとんどを、などからの輸入にたよっています。

(1) にあてはまる作物を次から選び、記号で答えなさい。

- ア パイナップル イ キウイフルーツ ウ バナナ エ ナタデココ

(2) にあてはまる、まわりが山地にかこまれている、昼と夜の気温の差が大きい地形を答えなさい。

(3) にあてはまる作物名をひらがな4字で答えなさい。

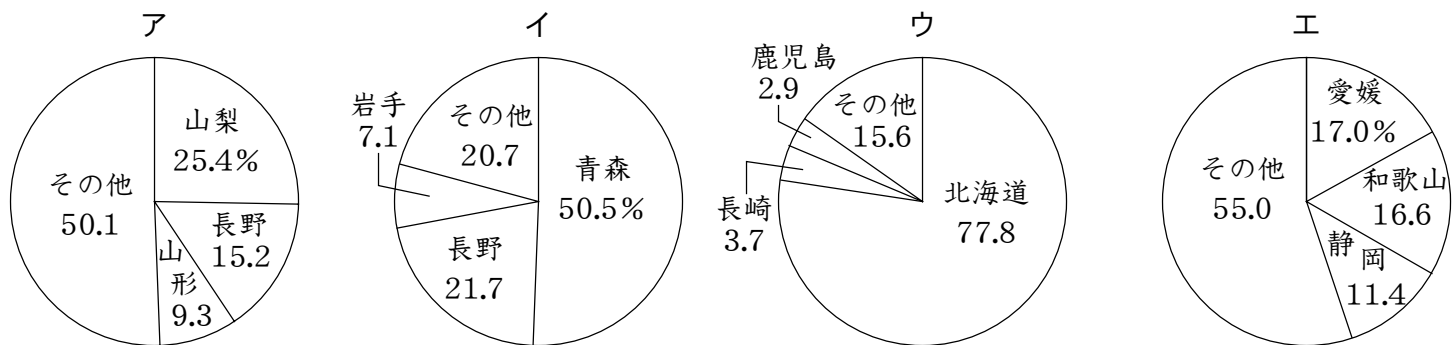
(4) にあてはまる製品として、正しくないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア しょうゆ イ みそ ウ うどん エ とうふ

(5) にあてはまる国を次から選び、記号で答えなさい。

- ア アメリカ合衆国 イ フランス ウ イタリア エ イギリス

(6) 下線部 a と b の作物の道県別生産割合を表したグラフをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。



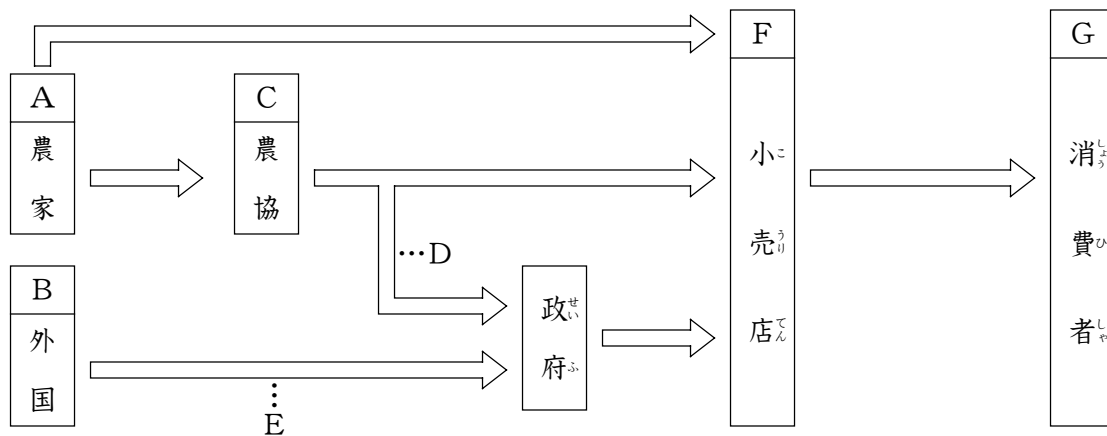
(2005/06年版『日本国勢図会』)

(7) 下線部 c の作物を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 小麦 イ とうもろこし ウ 大豆 エ てんさい

2 次の図を見て、あとの問いに答えなさい。

〔 米 の 流 れ 〕



(1) Aについて、次の問いに答えなさい。

① 農家には、人の健康に害をあたえる心配のある農薬の使用量を減らすため、右の写真のような農法をとり入れているところもあります。この農法で使われている水鳥の名をひらがなで答えなさい。



② ①で答えた水鳥のはたらきとして、正しくないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ふんが水田の栄養分になります。
- イ 水田にはえる雑草を食べます。
- ウ 稲につく害虫を食べます。
- エ 水田の土をやわらかくします。

(2) Bについて、次の問いに答えなさい。

① 外国産の米について述べた文として、正しくないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本国内ではあまり人気がありません。
- イ 1980年ごろから外国産の米の輸入が増えました。
- ウ せんべいなどの菓子に加工されています。
- エ 外国への食料援助に使われています。

② 日本に多く入ってくる外国産の米として、正しくないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア カナダ産
- イ タイ産
- ウ アメリカ産
- エ 中国産

(3) Cについて、「農協」は何の略ですか。正式名称を漢字6字で答えなさい。

(4) DやEのような経路(流れ)をたどる米を何といいますか。それぞれ解答らんにあうように答えなさい。

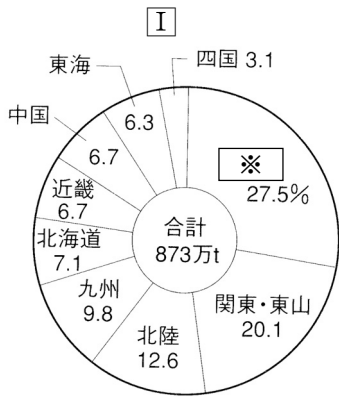
(5) Fについて、小売店にあてはまらないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 米屋
- イ 問屋
- ウ スーパーマーケット
- エ コンビニエンスストア

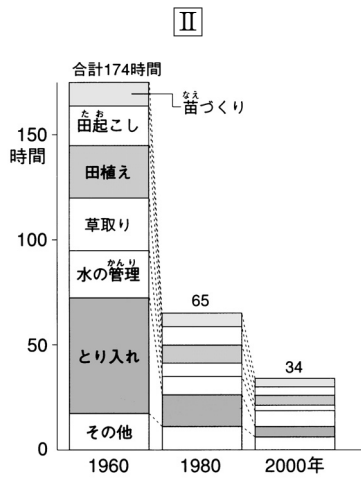
(6) Gについて、消費者は、特に最近、味・価格の他、安全性を考えて米を選んでいます。農薬や化学肥料を使わずに生産された農産物であることを、国がみとめた右のマークの名を解答らんにあうように答えなさい。



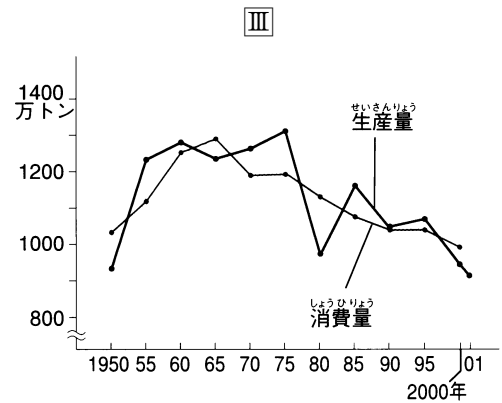
3 次のⅠ～Ⅲのグラフを見て、あとの問いに答えなさい。



【米の地方別生産割合】



【米づくりにかかる時間の変化】



【米の生産量と消費の移り変わり】

(2005年版『日本のすがた』など)

(1) Ⅰのグラフについて、次の問いに答えなさい。

① ※ にあてはまる地方の名を答えなさい。

② 「北陸」には4つの県があります。その中で、最も米の生産高が多い県の名を答えなさい。

③ ②で答えた県で最も多く栽培されている米の品種を次から選び、記号で答えなさい。

ア コシヒカリ イ ひとめぼれ ウ きらら397 エ はえぬき

④ ※ や北陸、北海道地方は、雪や寒さのために冬の裏作ができません。そのため、1年に1回だけ米を栽培しています。このような地域を米の 地帯といいます。 にあてはまることばを答えなさい。

(2) Ⅱのグラフについて、このように米づくりにかかる時間は大幅に減少しています。この理由の一つに、農作業が機械化されたことがあります。米づくりに使われる、次の①・②の機械の名をそれぞれカタカナで答えなさい。

① (田起こし)



② (とり入れ)



(3) Ⅲのグラフについて、次の問いに答えなさい。

① 今から40年ほど前から、米の消費量は減少しています。この理由として、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 米は生活習慣病の原因になるから。 イ 日本人の食生活が洋風化したから。
ウ 米の安全性に不安を感じたから。 エ 日本人の主食がめん類中心に移ったから。

② 消費量の減少とともに、米はあまるようになりました。そこで、政府は米の生産量を調整するために 政策を実施しました。 にあてはまることばを答えなさい。

③ ②の政策の内容(実施方法)を表す、次のA・Bにあてはまることばをそれぞれ漢字2字で答えなさい。

・ A …… 米があまっているので、田には米以外の作物を栽培すること。

・ B …… 米があまっているので、田を休ませ、何も栽培しないこと。

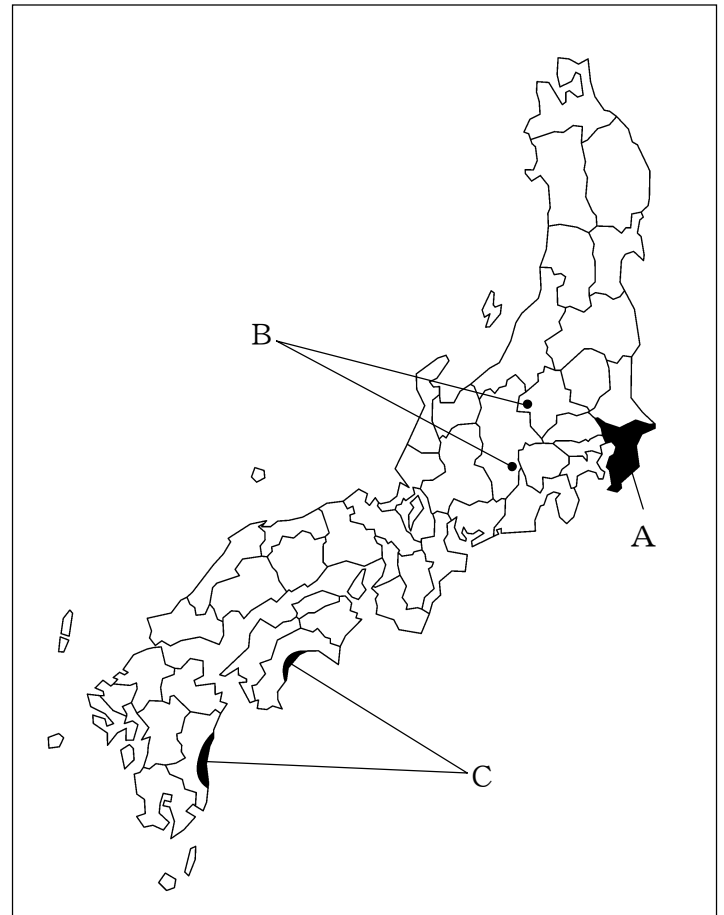
4 右下の地図は、野菜づくりのさかんな地域を表しています。この地図を見て、次の問いに答えなさい。

(1) Aについて、次の問いに答えなさい。

① この県は、野菜や草花をつくり、新鮮なまま大都市に出荷する農業がさかんです。これを 農業といいます。 にあてはまることばを答えなさい。

② この県について述べた文として、正しくないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア らっかせいの生産量が日本一です。
- イ たまねぎの生産が北海道に次いで多くなっています。
- ウ 茨城県や鳥取県とともに日本なしの生産がさかんです。
- エ 野菜の合計生産額が日本一です。



(2) Bについて、次の問いに答えなさい。

① ここでは、高原の夏でもすずしい気候を利用して、冬野菜を春から秋に出荷する 農業がさかんです。 にあてはまることばを答えなさい。

② ここでさかんに栽培されている野菜を次から選び、記号で答えなさい。

- ア きゅうり イ トマト
- ウ ピーマン エ キャベツ

③ Bで示した2つの地域のうち、北側の地域にある村の名を答えなさい。

(3) Cについて、次の問いに答えなさい。

① ここでは、夏野菜を秋から春にかけて出荷する 栽培がさかんです。 にあてはまることばを答えなさい。

② ①で答えた栽培方法を行うために、ここでは右の写真で示した施設を使って野菜をつくっています。この施設をカタカナで答えなさい。

③ ②で答えた施設を使わず、季節に合った野菜をふつうの畑でつくることを 栽培といいます。 にあてはまることばを答えなさい。



④ ②で答えた施設の中で栽培されている野菜として、正しくないものを次から選び、記号で答えなさい。

